



< 建設業らしさと財務力 >

先月号まで「完工高、利益の減少 P点の減少率」について、新旧経審の比較、及び規模の大小による比較をしてみました。まず、全体的に新経審の方が旧経審より下がり方がゆるやかになっていました。また、財務諸表が相似形(金額の大きさが違うだけで同じ形をしたもの)の会社で、規模の大小による比較をしてみました。(下のグラフ参照)完工高2,000億円を除き、完工高が小さくなると、旧経審よりも点数が低くなっていますが、完工高、利益の減少の影響は少なくなる傾向にありました。

そこで、今回はこれらのデータから別の視点で新経審の特徴を考えてみます。

X2評点が自己資本額及び利益額評点に衣替えして、X2評点は財務力を示す指標となりました。そこで、各指標は次のように分類されます。

建設業らしさを示す指標

完工高(X1)
技術力(Z)
その他の審査項目(W)

財務力を示す指標

自己資本額及び利益額(X2)
経営状況(Y)

今回の改正は、完工高競争から利益や自己資本の競争へと誘導することにあります。これは大企業が対象としていてるではありません。これは大企業が中心です。自己資本額及び利益額評点(X2)のテーブルの作り方、経営状況分析評点(Y)の点数の配分から見れば、中小の会社では財務

力の競争が抑制されるように作られています。したがって、今回規模の大小による比較をしたところ、規模の大きい会社ほど利益の減少による影響が大きく出ているのです。これらの階層では、兼業会社も点数を伸ばしており(兼業事業については、「躍進する兼業事業会社」WiseFAXNET2009.01月号参照)、利益を中心とした競争が激しくなりそうです。

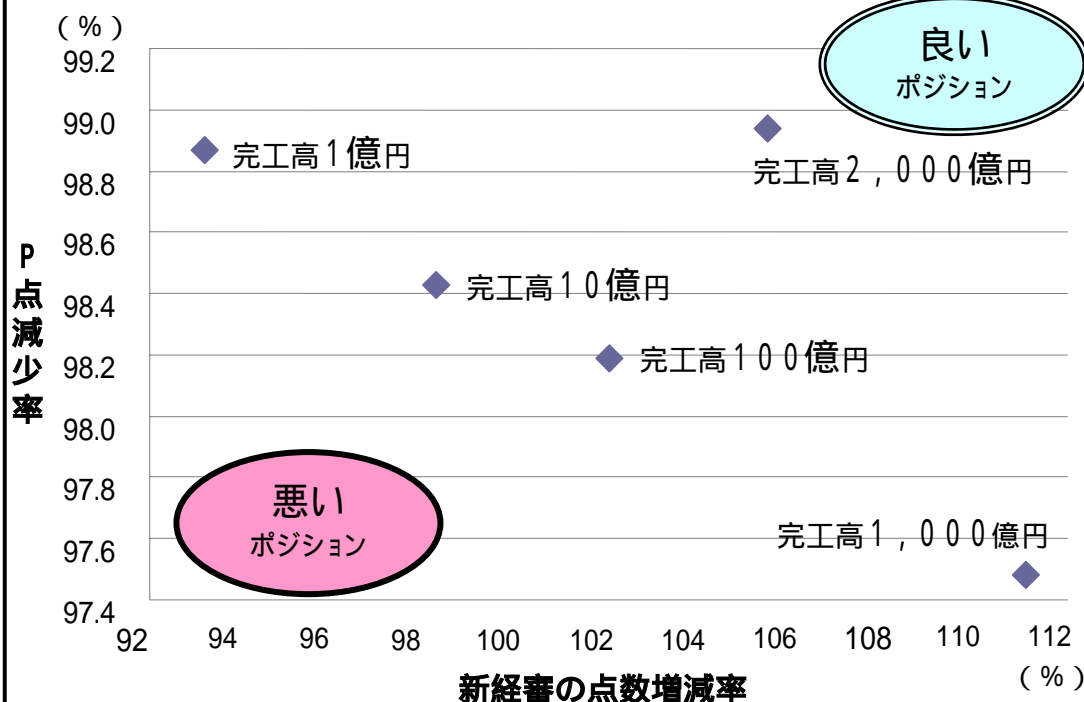
一方、中小の会社においては、財務力の競争では差が付きにくくなっています。これは、意図して作られたものであり、ある面受け入れざるを得ません。こちらは、建設業らしさの勝負に比重がありますが、主にその他の審査項目(W)にあるので、格差が大きくなりません。

このような状況で中堅の会社は、財務力の競争だけでは地位が相対的に低下しますので、建設業らしさを示すものとして、技術力の競争、中でも総合評価方式で「品質」で評価される方向に動いているように思われます。

この傾向は今回の経審の改正により必然的に生み出されたものといえます。

新経審の点数増減率と、P点減少率

新経審の点数増減率 = 新経審のP点 / 旧経審のP点
P点減少率 = 完工高80%のP点 / 完工高100%のP点



どの指標で競争するのか(させるのか)

	旧経審	新経審
大会社	建設業らしさ	財務力
中小会社	財務力	建設業らしさ

総合評価方式

今回の改正では、同じ指標で企業規模により別々のスタンスをとっているところに特徴があります。また、大、中、小で点数の序列化をはっきりさせたことも特徴のひとつです。大きい会社はどの指標でも点数が取れるように設計されました。各社の事情はそれぞれではありますが、経審の大きな流れに乗れるように努力したいものです。

WISENET編集部

松村 清(税理士)

P点の減少率は、完工高が20%減少した場合の点数と比較してあります。2期平均を使用する指標がありますので、点数の減少率が抑えられています。

送信先宛名変更(右欄に変更後の宛名をご記入ください)
今後「Wise FAXNET」送信不要
FAX送信はこちらまで 0269-65-4745

資料・デモをご希望の方は、下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名とご担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名

TEL

FAX